

鹿児島大学農学部における国際協力の実績

鹿児島大学農学部

岩元 泉

1. **国際協力の実績** 鹿児島大学農学部における国際交流は、学术交流、学生交流、留学生受け入れ、研究者交流などの形で進められてきたが、国際協力については国際協力事業団研修生の受け入れを全学的な取り決めの下に行ってきた。また農学部でも平成11年2月に「鹿児島大学農学部外国人研修生の受け入れに関する内規」が定められ国際協力のための研修生の受け入れがやりやすくなった。しかしその実績は取りまとめられていないので、筆者の関係で国際協力事業団関連の受け入れ実績を列挙すると、東アフリカ研修団約12名、ミャンマー研修団2名、ベトナム研修員2名で、期間は1ヶ月から数日までの幅がある。受け入れの特徴は直接の受け入れではなく、東アフリカとミャンマーの場合にはNGO「カラモジア」が受け入れ団体となり、その研修の一員として鹿児島大学での研修が行われたということであり、ベトナムの場合には九州大学が行っているハノイ農業大学支援のJICAプロジェクトの一貫としての研修ということになっている。
2. **「国際協力体験農業講座」について** 鹿児島大学共通教育の一カリキュラムとして開講した。農業分野で国際協力をしている現場を体験し、農業研修を行うというカリキュラムで2単位の講座である。平成11年度はタイに24名、ミャンマーに9名の学生を4人の教官が引率して研修をした。研修先はタイではパヤオ県にある「21世紀農場」（谷口巳三郎氏が開設する研修農場）、ミャンマーではシャン州イレー湖畔にある「カラモジアデモファーム」（NGOカラモジアが開設する実験農場）で、12月18日から28日まで研修を行った。日本のNGOが国際協力の現場でどのような活動を行い、どのような問題を抱えているかを現場で体験させ、外国の社会や農業をより深く理解するというのが講座の目的である。